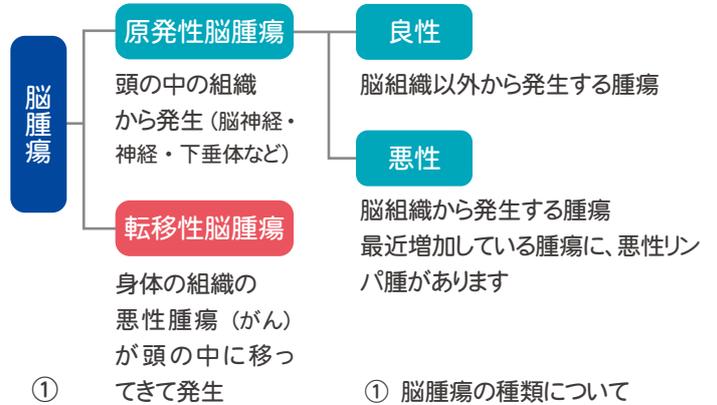


「脳腫瘍ってどんな病気？」

～ 気づく・セルフチェック ～

脳腫瘍とは頭の中にできる、できもの全てをさします。頭の中の組織から発生するものを「原発性脳腫瘍」、肺がん、大腸がんなど体の組織の悪性腫瘍が頭の中に移ってきて発生するものを「転移性脳腫瘍」と呼びます。

原発性脳腫瘍の内、脳組織から発生する腫瘍は悪性、脳組織以外から発生する腫瘍は良性と考えられます。しかし、脳腫瘍は頭蓋内にできることから、良性であっても大きくなれば、脳・神経の症状だけでなく、頭痛や嘔吐などの症状をきたすため、臨床的に悪性と考えられます。



② サイバーナイフ
 切らずに癌などの腫瘍を治療する放射線治療機器です。当院は昨年リニューアルし、頭頸部だけでなく肺と肝臓の体幹部治療を開始しました。

脳腫瘍の前触れ

脳腫瘍の特徴的な症状は、頭痛・嘔吐・眼底の視神経乳頭のうっ血（うっ血乳頭）による視力異常の3つで、わかりやすい症状は頭痛と嘔吐です。そのほかにも、脳は身体の司令を出す神経がたくさんあるため、腫瘍ができる部分によって、様々な症状が現れます。



声が変わり、むせやすい



手足に力が入らない
 けいれんがくる



視力が悪くなった
 顔の感覚が鈍い



音が聞こえにくい



半身がしびれる



意識を失う

脳腫瘍チェックシート

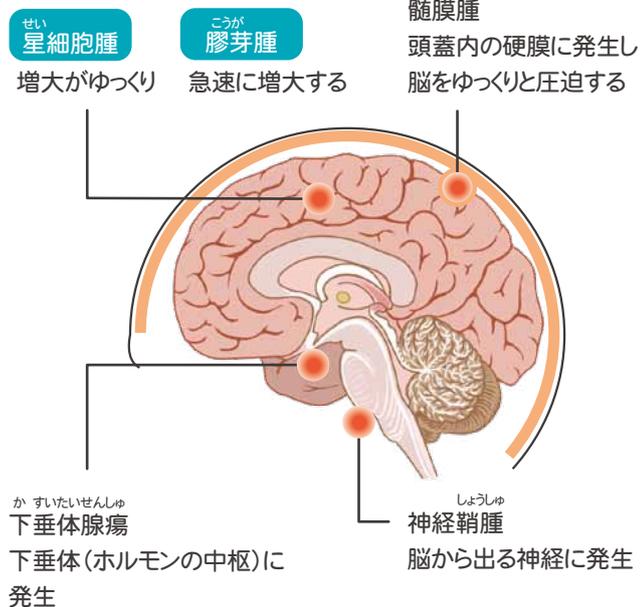
- 臭いがわからない
- 視力が悪くなった、物が2重に見える
- 顔の感覚が鈍くなった、顔がゆがむ
- 音が聞こえにくい
- 声が枯れた
- むせやすくなった
- 手足に力が入りにくい
- 半身がしびれる
- 気を失う
- 手足にけいれんがくる

チェックがある方は、必ずしも脳腫瘍とはかぎりませんが、医療機関で精密検査をおすすめします。

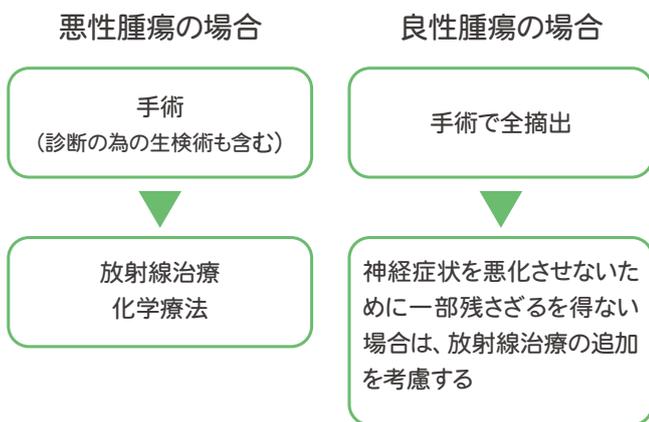
脳腫瘍の種類

悪性度も含めて細かく分類すると、非常にたくさんあり覚えきれませんが、代表的な腫瘍を紹介します。

神経膠腫(グリオーマ)
脳内の神経細胞を助ける細胞に発生
(原発性脳腫瘍の約3割)



治療の流れ

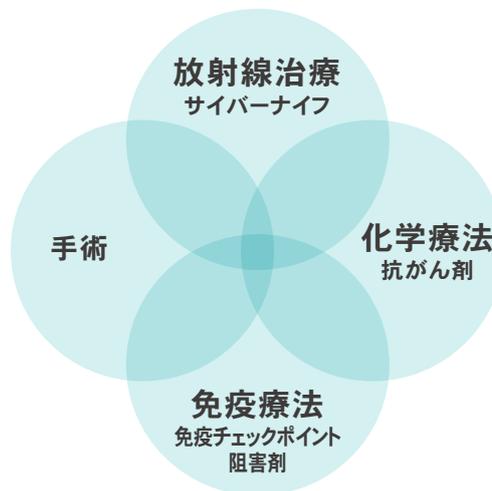


全身状態の問題で、手術がおこないにくい患者さんや高齢の方、画像診断・血液検査で診断がつく方は、手術はおこなわずに放射線治療・化学療法をおこなうこともあります。

治療の後は、その腫瘍に応じた必要な間隔で、定期的に画像検査(MRI、CTなど)などをおこなうことが大切です。

治療方法

人体にできた腫瘍に対する治療法は、手術・放射線治療・化学療法の3つが大きな柱です。とれる腫瘍はできるだけとり、残った腫瘍に対して放射線や薬を使い、治癒を目指します。最近では、免疫療法が4番目の柱となり、さらに遺伝子治療などが研究されています。



再発や経過について

不幸にも腫瘍が再発した場合、再手術を考慮します。場合によっては、手術をおこなわずに放射線治療であるサイバーナイフ治療や、薬を変更して化学療法をおこないます。治療にともなう副作用が、治療効果を上回ることが予想される場合には、痛みを減らしたり苦しみを予防・和らげる緩和治療をおこないます。

脳腫瘍の種類、悪性度、年齢、全身状態などでその後の経過や余命が異なります。良性腫瘍であれば、寿命が全うできることも多いです。